和歌山大学教育学部附属小学校

らいぶ 創 つくりえいたー
LIVE 創 REATOR

NO.57
研究広報誌

教育研究発表会 2011の お知らせ

CONTENTS

●研究会開催に当たって…… 1
●研究会各授業ＰＲ…… 2
●学習紹介：「がっこうだいすき！」…… 3
●学習紹介：風のパワーをたしかめよう！…… 4
●学習紹介：ふるさと和歌山（地域）に学び，和歌山を愛する個に…… 5
●学習紹介：少数のかけ算～表現力・思考力の育成をめざして～…… 6
●学習紹介：コミュニケーション能力の素地づくり…… 7
●学習紹介：紙芝居発表会をしよう！～１年生「おむすび　ころりん」～…… 8

学びの質の高まりをめざして
～自己の変容へとつながる「吟味」～







◆ごあいさつ

「学びの質の高まりをめざして」をテーマに，３年間の経験を重ねてきました。今年度は「協同的な学び」，「聴き合い，学び合える学級風土」づくり等に加え，子どもたち自身が学びたい・友達と話し合いたいと思える授業へ，課題提示や子どもたちが同じ視点へ向かう「焦点化」をどう進めるか。それをどのようにサブテーマ「自己の変容」へつなげるかについて，研究授業を中心に発表いたします。

また午後は，東京大学の秋田喜代美先生，和歌山大学の二宮衆一先生の対談を予定しています。全国の多くの学校を見てこられたお二方に，多彩な視点からお話をしていただきます。

日頃，自分の授業・自分の学校で精一杯の状況かと思います。さまざまな交流を通して，「明日からの元気」を持って帰っていただけるよう願っています。皆様のご参加を心からお待ちしております。

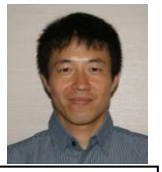
学校長　　菊川　恵三

期　日　**平成２３年１１月５日（土）**

日　程

8:15	8:40	9:00	9:10	10:10	11:10	12:40	14:00	15:45
受付	概要発表	移動	研究授業Ⅰ 移動	研究授業Ⅱ 移動	協議会	昼食	全体会 講演会（対談形式）	





講演／講師
★秋田喜代美先生
東京大学大学院教授
★二宮　衆一先生
和歌山大学准教授

主催・会場　和歌山大学教育学部附属小学校
後　　援　和歌山県教育委員会　和歌山市教育委員会　和歌山大学
和歌山県市町村教育委員会連絡協議会　和歌山県連合小学校校長会
岸和田市教育委員会　阪南市教育委員会　泉南市教育委員会　岬町教育委員会

らいぶスクエア

年・組 教　科	授業者 単　元	研究発表会　各授業　ＰＲ
１－Ａ 国　語	中田　郁子 じどう車くらべ	「こんな仕事をする車なんだから，これを書かなきゃ！」と，一人ひとりが，自分の経験を引き寄せて，こだわりをもって「じどう車くらべ」をする姿をご覧下さい。
１－Ｂ 算　数	市川　哲哉 よみとる算数	新教材に挑戦です。多くの情報から，今自分がほしい情報を選び活かすことが求められる課題です。ジャンプのある学び・クラス全員が学ぶ授業を創り出すことが目標です。
１－Ｃ 生　活	居澤　結美 ぼく・わたしの「おしごと」はこれだ！	自分・家族のお仕事を知る活動を通して，自分に自信を持ち，家族をうんと好きになる学習です。子どもたちの“お仕事”へのイメージがふくらみ，ひろがることも期待しています。
２－Ａ 体　育	谷口　佳都司 体つくり運動	運動自体を楽しみながら，様々な身体感覚を磨き，動きの工夫を発見していく子どもたち。仲間とのかかわりの中で，基本的な動きを総合的に身につける学習展開を目指します。
２―Ｂ 算　数	宇田　智津 三角形と四角形	「さんかく」「しかく」言葉は知っているけれど，どんな形のことをいうのかな。定義を押さえながら子どもたちの「？（はてな）」をもとに三角形・四角形のふしぎを探っていきます。
２－Ｃ 生　活	藤原　ゆうこ ぼく・わたしの「秋」見つけたよ！	「○○の秋」を楽しみながら，秋のステキ，秋の不思議をいっぱい見つけ，さぐっていきます。子どもたちが自信を持っておすすめできる「とっておきの秋！」が楽しみです。
３－Ａ 総　合	矢出　大介 世界一愛のある野菜作り ～こだわりをもって～	1人ひとりが，自分で育てたい野菜をこだわって育てました。愛情を込めて育てた野菜をどうするのが一番良いのか，それぞれの思いをもって話し合う姿をご覧ください。
３－Ｂ 理　科	中西　大 じしゃくのふしぎをさぐろう	目に見えない磁石の力をイメージ図で表現し，コンセプトマップを使って考えをつなぎ，整理していきます。不思議な磁石の世界を，実験を通して楽しみながらさぐります。
３－Ｃ 国　語	須佐　宏 すがたをかえる大豆	「へえ。」「そうなんだあ。」「知らなかったなあ。」と思うことが満載の教材文の魅力と工夫を探っていきます。自分が事前に書いた文に取り入れられるところが見つけられるかな。
４－Ａ 社　会	梶本　久子 めざせ未来の浜口梧陵 ～和歌山つながり PRO～	「東南海南海地震がおきたら…」百年後のふるさと和歌山を守るために，とことん考えました。小さな「浜口梧陵」たちの熱意あふれる話し合いをご覧ください。
４－Ｂ 体　育	渡辺　圭 器械運動・マット運動	安定した前転，後転，倒立ができるようになるためのこつを，友達と一緒にさぐりながら学びを進めます。お互いにかかわり合って，みんながができるようになることをめざします。
４－Ｃ 理　科	馬場　敦義 ものの温度と体積	空気・水・金属の温度による体積変化を調べることで，自然事象の“本質をさぐる”理科の学びをつくっていきます。学びを振り返ることで，思考し，表現する力を高めていきます。
５－Ａ 社　会	松尾　光孝 和歌山の情報はぼくたちにお任せ	情報産業である「テレビ和歌山」と関わることで，地域情報局の意義にふれます。子どもたちが周りにあふれる情報とどのように付き合っていけばいいのか，考えます。
５－Ａ 音　楽	江田　司 旋律づくり	４小節フレーズの旋律を反復・変化をもとに「つづく・おわる」の関係で結びつけていくところから，８～１６小節のまとまりのある旋律づくりにチャレンジします。
５－Ｂ 国　語	湯浅　明菜 大造じいさんとガン	自分の思いや考えが友だちと「リンク」するところを意識しながら伝え合い，高め合うことを目指しています。椋鳩十作品に表れる心を読み味わいたいと思います。
５－Ｃ 算　数	土岐　哲也 面　積	個々の考えを相手にわかりやすく伝えながら解決方法を見つけていく学習を目指します。既習事項を駆使し，図を活用しながら問題解決していくなかで表現力・思考力を養います。
５－Ｃ 家　庭	中西　正子 おいしいね毎日の食事	固い米が柔らかいご飯になるのはなぜ？スイッチひとつで簡単に炊けるご飯。でも，炊飯器がなかったら…？実験や観察を通してご飯をおいしく炊くひみつをさぐります。
６－Ａ 理　科	辻本　和孝 ～めざせ！小さな科学者～ 水溶液のヒミツをさぐろう！	目に見えない部分で起こっていることを，イメージ図で表現し，共有することによって考えを深めていきます。果たして小さな科学者たちはヒミツを解明できるのでしょうか？
６－Ｂ 音　楽	田辺　麻衣子 越天楽今様	子どもたちにとってあまり聴く機会のない雅楽。昔の人と同じように「今様」を楽しむことから『越天楽今様』の魅力にせまりたいと考えています。
６－Ｃ 外国語活動	辻　伸幸 I want to go to Italy.	子どもたちが行きたい国を伝える活動をします。保護者のボランティアによる支援で，コミュニケーション場面を充実できればと考えています。
１２Ｆ 国　語	三上　祐佳里 １年　くじらぐも ２年　お手紙	ぼくたち劇団１・２Ｆ！今度は音読劇に挑戦。１年生も２年生も，自分たちで協力しながら，学習を進めています。低学年なりの主体的な学びの様子を見ていただけたらと思います。
３４Ｆ 国　語	北川　勝則 ３年　すがたをかえる大豆 ４年　アップとルーズで伝える	説明文における筆者の工夫を，対話を繰り返しながら読み進めていきます。少人数・複式学級ならではの，学びの姿を見て頂きたいと考えています。
５６Ｆ 理　科	西村　文成 ５年流れる水の働き ６年大地のつくりと変化	５年生，６年生ともに「大地の様子」について学習します。単元構成を工夫することで，異学年が一緒に学ぶ複式らしさを活かし，地球内部をイメージし，探っていきます。

「がっこうだいすき！」
～ぼく・わたし　がっこうの“ふしぎ”いっぱい　みつけたよ！～

生活科
１年Ｃ組
居澤　結美



〇安心感のある学校生活を送るために

一年生の子どもたちにとって，学校はドキドキわくわく期待と楽しみがたくさん詰まっている場所です。それは，何が，どこにあって，誰がいて，何をしているか，これから何が起こるのか…など知らないことが多くあるからだと考えます。しかし，“知らない”がたくさんということは不安も詰まっているということです。「トイレが分からない」，教室から特別教室などにいるとき，トイレの場所が分からず１年生のトイレまで，一生懸命戻ってくることもありました。「この人だれやろ，いつもここにいてる」などと知らない人だらけです。『学校たんけん』は子どもたちの不安を取り除き，期待と楽しみな気持ちでいっぱいにするために，とても大切な単元だと考えています。「ぼく・わたしは学校のいろんなこと（もの・ひと）を知っているよ！」と自信をもって学校生活を送るための大きな手立てとして『学校たんけん』を考えています。

協議会では，「『学校たんけん』は先生の持つ学校観が大きく表れますね。先生が学校をどのような場所と捉えるか，子どもたちに学校をどう捉えさせるのか，その学校観によって単元の流れは大きく変わりますね」とご助言をいただきました。『学校たんけん』は，２学期も続けていきますが，今度は子どもたちの学校観を探りながら，進めていきたいと考えています。

〇新しい視点を獲得するために

『学校たんけん』から見つけた“ふしぎ”を発表し合っていると，「そんなん，ろうかにあった？ぼく毎日そこ通ってるのに，知らんかった」，「そこさっき，たんけんの時歩いたのに…」という声が子どもたちからたくさん挙がりました。“何かを見る視点”は，初めから備わっていません。子どもたちそれぞれが持っている興味・関心，生まれ育ってきた環境など，様々な要因で“視点”は身に付きます。30 人が集まれば，30 通りの“視点”があります。その違いを子どもたちは感じながら，自分自身の視点と友だちの視点を合わせて新しい“何かを見る視点”を獲得していきます。教師はこの子どもたちの見つけてきたものを学習に繋げていきます。

本単元では，“防災”に視点を合わせ進めていきました。「学校には，自分たちを守ってくれる“もの・こと・ひと”がこんなにあるんだ」と子どもたちは驚きながら，さらなる安心感をもつことができました。生活科は学んでいくための“視点”を，子どもたち同士，教師が密にかかわりながら進めていける教科だと改めて感じることができました。









「どうして，さすまたの先は四角じゃなくて丸くなんですか。たぶん…，」



始め「ユーホー」と言っていた，「人感センサー」を管理している警備会社の方たちがお話をしに来てくれました。（左の写真＝防災教室）

自分たちを守ってくれる人たちも，自分たちの身近にいて見えている人と見えていない人がいることを知ることができました。

風のパワーをたしかめよう！
～イメージ図やコンセプトマップの利用～

理　科
３年Ｂ組担任
中西　大



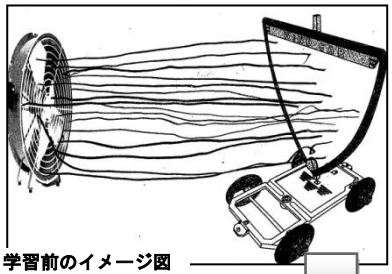
理科で扱う自然事象は，様々に関係をもちながら存在しています。そんな関係をひもときながら，理科の学びを楽しみながら深めたいと考えています。

まず，目に見えない「風」をイメージ図に表すことで，考えが説明しやすくなったり，相手の考えが分かりやすくなったりすると考え，学習活動に取り入れています。また，「風」という自然事象を科学的に捉えるためには，どのような視点をもつことが適切かを，コンセプトマップの更新によって身に付けさせることができると考えました。

ここでは，３年生の『風やゴムのはたらき』の単元で，イメージ図やコンセプトマップを活用した実践を紹介します。

【イメージ図】

風の力が物に働くとき，どのような仕組みになっているのか，イメージ図を描くことで子どもたちの考えを表出させました。学習前には，送風機から送られる風を数本の線で描いたイメージ図が多く見られました。しかし，イメージを確かめるために行った様々な実験の後には，線だけでなく，点々を組み合わせるなどして風の動きや働きの細かい部分まで目を向けられていることがよく分かります。

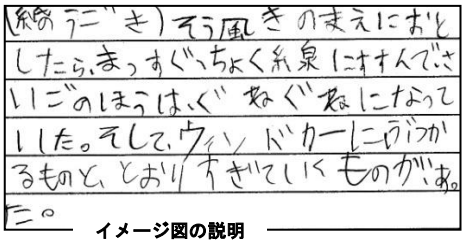


学習前のイメージ図



学習後のイメージ図

また，イメージ図の説明にあるように，風が送り出された付近では働く力が強く，直線に進むのですが，離れると力が弱くなり，「ぐねぐね」に進むという考えを共有できていました。



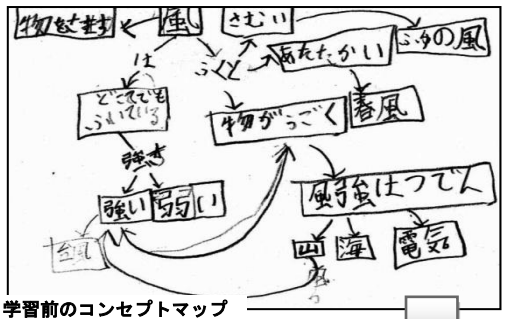
イメージ図の説明

このように，実験後にイメージ図を更新することで，自分が実験して得た情報を元に，より説得力のあるイメージ図を描くことができ，風の力の働き方を捉えることができました。

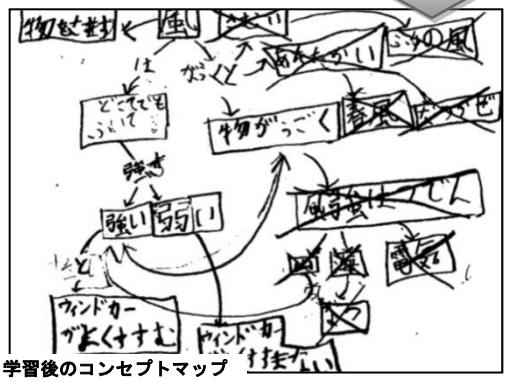
【コンセプトマップ】

「風」と言っても，台風・涼しい・風力・熱風など，様々に連想できます。しかし，学習の対象となる自然事象に焦点を当てるためには，関係のある自然事象を整理して考える必要があります。理科という教科に初めて触れる３年生では，必要な要素に気付かせるためにコンセプトマップを活用し，それを更新することで焦点化を図りたいと考えました。

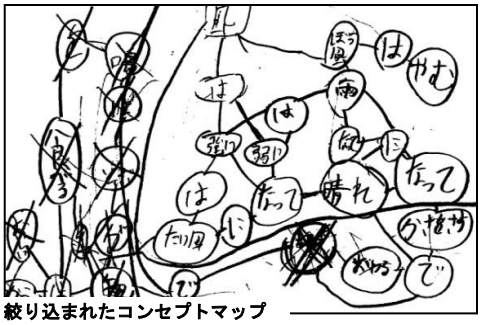
右図のように，学習前と後を比較すると，山や海，発電や季節に関係するものが消去され，物がどのように動くかについてのチャートが追加されています。下図は，風について進んで調べ学習をしていた子どものコンセプトマップです。追加されたチャートはないのですが，理科に関わる自然事象に絞られてきているのがよく分かります。



学習前のコンセプトマップ



学習後のコンセプトマップ



絞り込まれたコンセプトマップ

ふるさと和歌山（地域）に学び，和歌山を愛する個に

くらしを支える水～ふるさと和歌山つながりプロジェクト～

社会科
４年Ａ組担任
梶本　久子



地域に学ぶとは，教材との出合いを地域にかかわることから見つけ出し，地域の「ひと・もの・こと」とのふれあいの中で社会的事象を考えるきっかけをもたせることだと考えています。そこで，身近な地域とのかかわりの中から見出したよさを実感し，地域との主体的なかかわりをもとうとする子ども，すなわち地域を愛する子ども（個）を育てたいと考え，本年度も１年を通して「和歌山」にこだわった学習を計画しました。

■　くらしを支える水～ふるさと和歌山つながりプロジェクト～

○「学び方を学ぶ」



４年生の調べ学習では，なるべく具体的な「もの・こと」を大切にして，学び方を身に付けるような学習の工夫を考えています。そこで，４月から「学び方を学ぶ」ために，発表・インタビュー・調べ学習のルールなど，発達段階にそった学び方カードを作成し細かく指導してきました。本単元は，真砂浄水場という身近な教材がきっかけとなり，水，紀の川にかかわる「ひと，もの，こと」と直接触れ合うことで，和歌山や紀の川を身近に感じるようになりました。また，そこで出会った方々が，学習を高めてくれる貴重な指導者になってくださったことも子どもたちにとって，大きなエネルギーになったと思います。また、単元を通して，様々な活動の中で自分たちの住んでいる地域への思いをより強く持ち，自分の思いや考えを確実なものにすることができました。そして，いろいろな立場の人と接し，学校だけでなく，現実の社会とのつながりを持ったことで，より一層，自分の考えを吟味することができ，４年生なりの学び方を身につけたと思います。

○個を育てるために

単元を通し，個人のふりかえりカード，作文等の活用により，他者との見方・考え方の違いや自分自身の見方・考え方の変容に気づくことができ，追究姿勢にも変化が出てきました。教師が個人カルテを記録し続けることにより，一人ひとりの子どもの変容をみとることができました。子ども一人一人に目を配り，みとり，評価すること，そして，その評価に基づいて，その個をどう育てたらいいかという視点をもち，具体的な姿を思い浮かべて個に応じた指導を繰り返すという姿勢が重要だと感じています。本単元でも作文やノートでの対話，学びの途中記録，発言，やりとりの中から個に応じた支援を続け，それらを通して，学習意欲を喚起できるようにすることを大切にしました。

○単元の終末に（作文より）

たくさんの人がいつも優しくて丁寧に教えてくれました。インタビューにも答えてくれて，一生懸命に紀の川や水のことを考えている人が多いんだな，そして，優しい人がいっぱいいるんだなって思いました。いろんな人から「勉強してるね」って言ってもらいました。附属のこと，和歌山のこと，紀の川のことを真剣に考えてたから，ちょっとうれしくて家でじまんしました。浄水場にも何度も行ったし，附属も調査したし，ちょっとしんどいときもあったけど，なんか感動しました。それにこれからも，いろんな人に伝えていきたいと思いました。



めざせ！現在の浜口梧陵　～ふるさと和歌山つながりプロジェクト～

１学期は「くらしと飲み水」を取り上げ，和歌山市の水や浄水場は紀の川という豊かな恵みから恩恵を受けているということを中心に学習しました。「ふるさと和歌山」の「紀の川」という視点で学習することによって，和歌山，紀の川の特色やよさへの理解に基づいて，自分たちの住んでいる地域に対する誇りと愛情を育てていきたいと考えたからです。

そして、２学期は，１学期の紀の川の「いい水」から「こわい水」に視点を変え，和歌山の先人「浜口梧陵」の学習を入り口に，津波，地震を中心に和歌山の防災について取り上げていきます。研究会では，子どもたちの熱意あふれる話し合いを楽しみにしてください。

小数のかけ算

～ 表現力・思考力の育成をめざして ～

算数科
5年C組担任
土岐 哲也



算数の授業では，相手を意識した上で，自分の考えを図や表などを活用し，互いに表現（説明）し合うことで学びを高めたいと考えている。表現することで数学的な思考力を養う授業を『小数のかけ算』の学習を通して考えてみたい。

共通の土俵にのせる

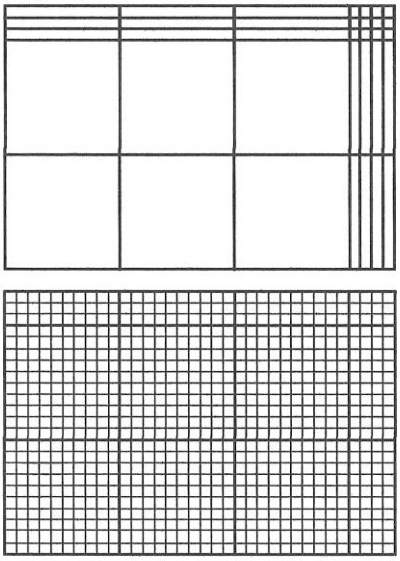
本時の課題は，「辺の長さが小数のときでも，面積の公式は使えるのだろうか」である。導入で面積の意味（「1平方センチメートルがいくつ分あるか」ということ）を思い起こさせ，それを手がかりに問題解決させていこうと考えていた。「1平方センチメートルがいくつ分あるか」これが本時での「共通の土俵」である。「1平方センチメートルがいくつ分あるか」を手がかりに，子どもたちが思考の道筋をつけていくであろうと考えた。

多様な考えを引き出す発問

具体的には，次のような内容である。導入で，長方形の画用紙を提示し，あえて辺の長さを示さずに，「さあ，面積はどれだけだろう。」と尋ねた。『縦にいくつ分，横にいくつ分』を意識させ共通の土俵にのせるためである。

子どもたちは，「辺の長さがわからないとできない。」と当然言ってくる。そこで，「どうして縦と横の長さがわかれば面積がわかるの？」と聞き返したり，「自分で数字を入れて説明してごらん」と返したりする。子どもたちは，辺の長さを説明しやすい整数の数値を当てはめ考える。そうすることで「1平方センチメートルがいくつあるから面積が出る。」というふうに単位量に着目し，共通の土俵にのる。そして，「じゃあ，縦2.3㎝，横3.4㎝だったらどう？辺の長さが小数のときでも，面積の公式は使えるのかなあ？」と本時の課題に入っていく。このような発問が，その後の作業で，右図の（ア）の考え方を導き出すことになる。子どもたちが「辺の長さがわからないとできない。」と言ったとき，「縦2.3㎝，横3.4㎝だよ。」と言ってしまっては多様な考えは期待できない。

（ア）図で考える



（イ）式で考える

（2.3×10）×（3.4×10）＝782

782÷100＝7.82

〈図〉

表現し合うことで学びを高める

図（ア）の上側の方法で考えようとしていた子は，小数の部分をどうしようかというところで悩んでいた。また，式だけで考えている子もいる。公式に頼り数字の操作だけになって図のイメージがもてていないように感じたので，図の考え方の子と結びつけさせたいと考えていた。そこで，図（ア）の下側の考え方をしている子に図を提示してもらい，その子がどのように考えたのかをみんなで考えさせた。図（ア）の下側の考え方は，辺の長さを㎜で考えていることに気づいた。そこで，一旦平方ミリメートルで面積を求めることになった。面積は23mm×34mm＝782平方ミリメートルとでた。次に，782平方ミリメートルを平方センチメートルに変換して7.82平方センチメートルとできた。ここで，（イ）の式で考えている子と考えがつながり，図のイメージがもてたと考えられる。そうなると図（ア）の下側と図（ア）の上側を比べ，上側の考えは，㎝と㎜が混じっていることに気づく。このように互いの考え方を表現し，図と図，図と式を結びつけることで問題解決していった。

本時から，発問の大切さや互いの考えを比較し結びつけていく大切さを感じた。

コミュニケーション能力の素地づくり

～ 必然性のあるコミュニケーション活動を求めて ～

外国語活動
6年C組担任
辻　伸幸



外国語活動の本格的な指導が始まり、様々な実践が展開されていることと思います。今年も、外国語活動を総合的な学習の時間と関連させ、必然性のあるコミュニケーション活動の場を求めて奮闘しています。大きく分けて３つのプロジェクトが１年間を通して流れています。プロジェクトにすると成功させたいという明確な目標ができます。子どもたちにとって何のために活動をしているのかがはっきりすれば、意欲も高まります。今回は、学級で取り組んでいるプロジェクトをご紹介しましょう。

【WE LOVE WAKAYAMA ！ プロジェクト】

６年生は、修学旅行や社会科の校外学習で京都・奈良へ出掛ける機会があると思います。そのチャンスを外国語活動にも活用したいものです。本校の６年生は、社会科の歴史学習を目的に奈良に行きました。その時間の一部を利用して、東大寺を訪れている外国人観光客に、「郷土わかやま」をピーアールしてきました（写真１）。

Hello.
We are from Wakayama.
May we have your time, please?
My name is ○○○.
Do you know Wakayama?
This is a present for you.
Please come to Wakayama.
Thank you very much.

図１　使用した英文

具体的には、４人の小グループで図１の英文を分担して話しました。プレゼントとして和歌山市の観光パンフレットを手渡しました。どの方も、笑顔で応対してくれていました。子どもたちにとって、緊張はしたでしょうが、貴重な体験をすることができました。今後、京都や長崎、関西空港にも行く計画なので、本プロジェクトを発展させていきたいと考えています。

【WE LOVE SKYE ！ プロジェクト】

毎年、担任する学級の子どもたちには、オーストラリア・ビクトリア州にあるスカイ小学校（SKYE PRIMARY SCHOOL）の同年代の子どもたちと国際交流をもてるようにしています。スカイ小学校では、日本語を低学年から教科として週に１コマ学んでおり、お互いの言語や文化を体験的に学ぶ上で理想的な関係で、今年で６年目になる息の長い交流を続けることができています。具体的には、子どもたち一人ひとりに交流相手（バディー）をつくり、自己紹介の絵手紙を交換したり、スカイプを使ったテレビ会議システムを行ったりして交流を深めています。

今年度は、１学期にバディー同士の初顔合わせがテレビ会議システムで実現しました。スカイ小学校からは、東日本大震災のことも配慮して「上を向いて歩こう」の歌を日本語で手話も交えて発表してくれました（写真２）。

【和歌山 de 世界一周 ！ プロジェクト】

このプロジェクトは、総合的な学習の時間を活用した国際理解教育として行っているものです。和歌山県国際交流センターの支援を得て、和歌山に在住する外国人の方をゲストとして学級に招き、五感を使ってゲストの方の国の文化や言語を体験するものです。一年間で５カ国程度の国の方をお呼びし、和歌山にいながらにして世界一周が味わえるという贅沢なプロジェクトです。６月にはインドのガネーシュ・ギリさんをお呼びし、インドの伝統衣装のサリーやターバンの試着、インドダンス、バナナラッシーやインドチャイの試飲など、まさに五感を通してインドの文化に触れることができました（写真３）。

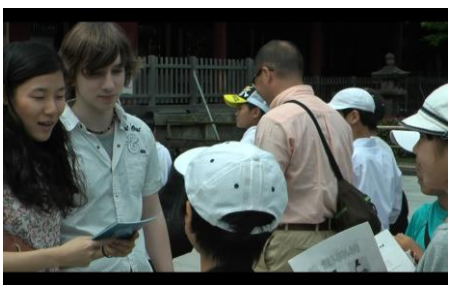


写真１　奈良での活動



写真２　スカイ小学校との交流



写真３　インドの文化体験

紙芝居発表会をしよう！
～１年生　「おむすび　ころりん」～

複式・国語科
１・２年Ｆ組担任
三上　祐佳里



１・２年生Ｆ組では、1学期『紙芝居発表会』に取り組みました。１年生は、「おむすび　ころりん」　２年生は「スイミー」の紙芝居を作りました。今回は１年生の「おむすび　ころりん」を中心に、子どもたちの様子をお伝えします。

【どんなお話かな？】

１年生の教材「おむすび　ころりん」は、段落に合わせて８枚の挿絵があります。まず挿絵だけを見せて、お話の内容や順番を考えました。

このお話はもともと有名な昔話なので、挿絵をじっくり見ながらお話の内容を考えていくことができていました。

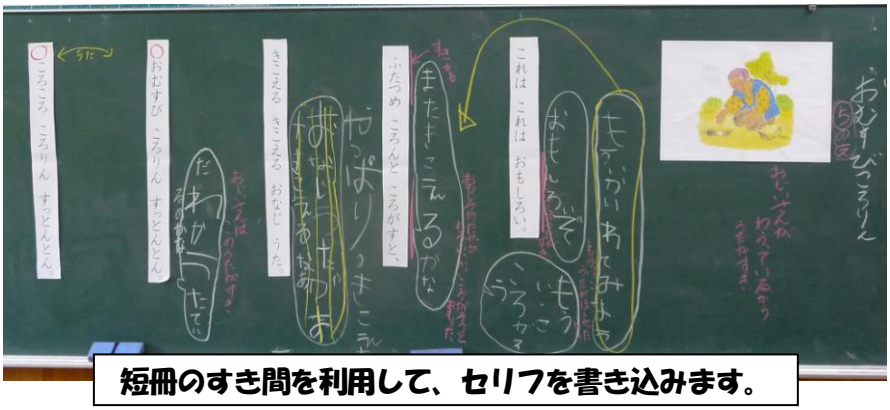


挿絵を入れかえながら、お話の内容を考えます。

【おじいさんのセリフをつけくわえよう！】

お話の内容や順番がわかったところで紙芝居作りの始まりです。それぞれの段落と挿絵に合わせて、行間におじいさんの台詞を書き足していきました。

まず、一人ひとりが自分のプリントに書き込みをします。そしてペアで紹介し合った後、全員で話し合いをして一枚の紙芝居を仕上げていきました。



短冊のすき間を利用して、セリフを書き込みます。

複式学級なので、子どもたち自身で話し合ったセリフを記録してもらわなくてはいけません。本文を拡大コピーし、短冊に切って黒板に貼っておくことで、行間をはっきりさせ、セリフを書き込む場所を分かりやすくしました。こうすることで、書く場所を指示しなくても、自然と「ここに書きこんだらいいんだな。」とわかることができました。

【みんなに聞いてもらおう！】

紙芝居を作ったあと、２年生といっしょに『紙芝居発表会』をしました。１年生Ａ組・Ｂ組・Ｃ組と、複式３～６年生にむけて発表会をしました。





２年生の「スイミー」といっしょに、紙芝居発表会をしました。

たくさんの人に聞いてもらい、喜んでもらうことができたおかげで、「今度は、２年生にも何か聞いてもらいたい！」という気持ちをもつことができました。

From Editors

『らいぶ・創りえいたー』も11年目を迎えました。「生き生きと本物を創り出すひと」という意味を込めています。

本校ホームページにはカラー版を掲載しています。ご意見・ご感想をお寄せ下されば幸いです。

編集委員：三上，松尾，中田，矢出，藤原

和歌山大学教育学部附属小学校
〒640-8137　和歌山市吹上１丁目４番１号
TEL　（０７３）４２２－６１０５
FAX　（０７３）４３６－６４７０
URL　http://www.aes.wakayama-u.ac.jp
Ｅ－mail　fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp